

ブラジル事務所から ひとこと

世界一の柔道人口を擁し、オリンピックでのメダルも多いブラジルで、講道館創始者の嘉納治五郎師範が掲げた“人格の完成を図り、社会への貢献を目的とした柔道”を学校教育に取り入れる試みが始まっています。バストス柔道協会とともに竹谷隊員が行っている活動は、そのモデルケース。ブラジル全土の学校に浸透してることが期待されています。



企画調整員(ボランティア事業)\*  
永浦裕太(ながうら・ゆうた)

\* 隊員の活動全般を支援する「ボランティア事業支援のプロ」。また相手国の要望を調査し要請開拓を行うなど、隊員活動全体の運営を行う。



その動き、いいぞ!

バストス柔道協会の道場で指導する竹谷さん。



JICA海外協力隊  
がゆく Vol. 9

今回は、ブラジル初の柔道隊員として活動している  
日系社会青年海外協力隊員を紹介します。

in ブラジル  
竹谷元太

たけたに・げんた 24歳  
出身地: 神奈川県 職種: 柔道  
任期: 2018年1月~2020年1月



首都: ブラジリア

柔道を通して  
子どもたちに規律や  
礼儀を伝えています



祖父に勧められて始めた柔道を13年間続けてきました。大学時代には、企業の柔道チームの練習のお手伝いとしてオリンピックや世界選手権に同行し、試合や練習をサポートしました。海外協力隊員の帰国報告会で、自分の経験を途上国で生かせる道があることを知って応募し、昨年ブラジルに赴

任しました。

私が活動しているバストス市は、サンパウロから車で約8時間。日系人が多いことで知られています。この街のバストス柔道協会に所属され、国内トップクラスの同協会の道場で、試合に勝つために技をくり返しかける打ち込みや試合形式の乱取り、筋力トレーニングなどを行っています。10歳から18歳までの子どもたちを毎日指導していて、なかには市内に下宿して柔道に打ち込んでいる子もいます。

さらに毎週月曜日と木曜日は小学生たちに「学校柔道」の指導を行い、簡単な技や自分の身を守る受け身などを教えています。学校柔道とは、ブラジルの学校教育に最近、取り入れられた柔道のこと。柔道を通して礼儀や規律を学び、社会に貢献できる人材を育成することを目的としています。そのため、柔道の技術だけではなく、挨拶をしつかりする、脱いだ靴はそろえるなど、当たり前のことを当たり前にできるように徹底して指導しています。

素直な子どもたちが多く、前向きに元気いっぱいに参加しています。近くのスーパーで買い物をしていったとき、ひとりの教え子が私を見つけて、大きな声で「せんせい、こんにちは!」と言ってくれたときは、周囲から注目されて恥



バストス柔道協会の建物には、竹谷さんを歓迎する横断幕が掲げられている。

+one information  
集まればシュラスコ

ブラジルは日系人がとても多く、スーパーに行けば日本のお菓子やカップラーメン、醤油、わさび、さらにお弁当やおにぎりなどたくさんのもが売られています。また、少し値段は高いですが、お刺身やラーメン、焼きそばなども日本食のレストランで食べることができます。特別な日には友人や仕事の仲間たちと出掛け、少し贅沢をします。

しかし、なんといってもおいしいのはブラジル料理です。有名なのはシュラスコ(バーベキュー)。シュラスカリア(シュラスコを出すレストラン)で食べられますが、ブラジル人は、子どもから大人まで集まって家で食べるシュラスコが大好きです。ブラジルではほぼ一家に1台、シュラスコ用のバーベキューセットがあります。焼くのは牛や豚、鶏、ソーセージなどいろいろな肉で、私が一番好きなのはピッカーニャという牛のお尻のお肉。とても柔らかくおいしいです。シュラスカリアに行った際には、ぜひピッカーニャを頼んでみてください。

週末や休日、たくさんの友達を呼んで昼からビールを飲み、ワイワイと楽しくやるシュラスコは最高です。シュラスコを食べながら音楽をかけてみんなで踊り、私にも本当の家族のように接してくれるブラジルの人たち。その優しさ、温かさはほんとうに心に染みます。アットホームな環境で生活ができるおかげで、毎日楽しく活動できています。残りの活動期間も一日一日楽しく、自分らしく活動していきます。(竹谷元太)



イラスト ● さかがわ成美

JUDO大好き!



学校柔道を習う市内の小学生。



すかしさもありませんでしたが、きちんと挨拶ができていたことをとてもうれしく思いました。柔道で大切なのは強くなること、そして人として成長すること。競い合う相手への敬意や感謝の気持ちを忘れてはいけません。柔道には「精力善用」「自他共栄」という言葉があります。自分の持つ力をよい方向へ全力で使い、他者を信頼し、協力し合い、ともに栄えある世の中にするということです。勝敗だけにとらわれない柔道の精神をブラジルの子どもたちに伝えたいと思っています。